

# 県へ要請 商工会関係予算の満額確保を！

県商工会連合会では、10月3日、「平成20年度商工会及び商工会連合会関係予算の確保について」の要請書を、沖縄県知事へ提出した。

県商工会連合会の荻堂会長は、沖縄県の理解とご支援を得ながら、地域経済の振興発展のため、これまで以上に支援体制の強化及び支援事業の拡充を図っていくことを表明し、平成20年度商工会関係補助金要望額約10億500万余の満額確保について強力に要請した。



県奥村産業振興統括官へ要請書を手渡す荻堂会長

## 全国展開支援事業 『採択商工会の今、進捗状況紹介』

平成18年度からスタートした「小規模事業者新事業全国展開支援事業」全国展開プロジェクト、公募により地域興しの斬新なアイデアと企画を競う事業で、本県より本年度は8商工会で採択されており、今回はその採択商工会より東村、糸満市商工会を紹介致します。前回採択商工会紹介は、2007年7月号となっています。

### 東村 『日本一の美味しいパインの産地』であることを特産品として表現

パインの生産量が日本一の東村。にもかかわらずその知名度は県内でも今ひとつ。「せっかく日本一の称号があるのに活用しなくては」と、知名度アップのために立ち上がったのが「東村商工会全国展開プロジェクト」だ。以前からパインを原料に特産品開発を志している商工会メンバーに参加を呼びかけ、プロジェクトチームを結成した。チームリーダーに沖縄県物産公社の青木元商品開発担当。比嘉正次指導員を事務局員として6月上旬からプロジェクトが動き



始めた。試作品には「パイン果汁入りマヨネーズ、バーベキューソース、パイン入り天ぷらソース」などの調味料、「パイン果肉入りチョコクッキー、南米仕込みのパインチュロ」が登場し、メンバーで試食や改善案を出し合った。今回は、パインを中心とした東村特産品シンボルマークも同時開発し、地域ブラ

ンド構築も試みようと、メンバーは熱意に満ち溢れている。やんばるの自然に抱かれた東村の「パイナップル」が、地元で誇れる商品としてデビューするのはもうすぐ。大いなる期待を抱いても遜色はない。



### 糸満市 『沖縄かまぼこの発祥の地』としてブランドの創出

糸満市は「沖縄県のかまぼこ発祥の地」であり、沖縄のかまぼこ（揚げかまぼこ）が「さつま揚げ」のルーツであると言われているが、その認知度は高くないというのが現状である。市内には11の製造業者があるが、小規模事業者であるため、現状を打破するための足腰が弱い。そこで、本事業を通じて糸満市のかまぼこを、全国で通用する付加価値の高いギフト商品としての「商品開発」を図り、「ブランド商品」としての地位を目指している。県内だけでなく、本土市場への拡大

を見越した商品コンセプトの構築と顧客の絞込みをしていく。そこで、市内事業所のかまぼこ製品を試食し、商品開発へのアイデアを現在、集約している段階。商品販売戦略として、高級品「高級志向」、ギフト系「普及版」に絞り、パッケージ作りにも現在取り組んでいる。

(1) 価格1万円(県産グルクンすり身を使用)の高額商品  
(2) 価格2~3千円代の普及を促進するギフト商品

として、糸満のかまぼこブランドの確立を目指す。



ギフト系『普及版』

